



→桜の花が咲いた。
お客さんも連日のようにやって来る。

←紫色のブロッコリーが畑にあった。調べてみたら寒さから身を守るためにアントシアニンをつくり出すので紫色になるそう。そういう天候が異常だった。

※訂正 パープルフラワー
でした(紫カリフラワー)。



真冬と初夏が一週間のあいだにやって来た不思議な週だった。

二十一日水曜日、三十二年ぶりに東京に雪が降った。東京の奥多摩の山では雪について登山をしていた十三人が遭難して山中でひと晩を過ごした。

「知らない連中とよく山に登れるよなあ。それも雪が降ってるのに……」

舟頭さんがそう声をかけた。続けて「SNS（エスエヌエス）で集まったというからすごいよねえ。それも日本に住む中国人のSNSだそうだ」

たしかにすごい。中国人のネットでの呼びかけに参加する日本人がいる時代になったのだ。これを国際的といっているのかどうか知らないが、われわれの世代にはとうてい理解できない。

そんな話をしているとところにヤツさんがやって来た。

「まいったよ、茨城出身だなんて人前でいえないよ、ったく」

すかさず私は、

「どうして？」

と、聞き返した。

するとヤツさんは、

今週のクマ

→お客さんが多いので喜ぶクマの笑顔。



→今年もスカンポが土手に芽を出した。むかしは塩をつけておやつ代わりに食べたものだ。いま食べてみると酸っぱいだけだった。



「昨日の高安の負け。自分から土俵の外に飛び出すなんて……」

十二日目、大関の高安が前頭の千代丸と対戦し、振り回したのはいいが千代丸のお腹に逆に振り回され、自分から飛び出すかのように土俵を割った。

今場所は横綱の稀勢の里が休場し、高安がゆいいつ同郷の力士だ。それだけに期待していたのに、かんたんに負けてしまったのがよほど悔しかったのだろう。

それも、この一番に勝っておけば千秋楽に一敗の鶴竜と対戦して勝てば優勝の目があったからだ。

「高安はだいたい相撲をなめてるよ。稀勢の里もそうだけど、ケガが治っていないの出て、負けがこむと休場するし……」
「そうだよ、モンゴル横綱のように万全の体調になるまで休めばいいんだよ。なにしろ、横綱は休んでも番付が下がらないんだから……。白鵬なんか見てごらんですよ、肘打ちができなくなって勝てないとなると休むんだから」

そこまでいっては、かわいそうだと舟頭さんはいう。たしかに、かわいそうだが日本で相撲を取るからには、日本の相撲のルールに従うべきだと、私は思う。